

尾瀬の紹介

「尾瀬」は、尾瀬国立公園を構成する広い範囲の山々と湿原を指す呼び名です。尾瀬は日本で最大の島である本州の真ん中にあり、群馬・福島・新潟・栃木の4県にまたがっています。

尾瀬の自然環境には、人間が干渉した跡がほとんど見られません。日本でも指折りの盛んな環境保護活動のおかげで、この地域の地形と野生生物は、何千年にもわたって発達させてきた物理的・生態学的特徴を多く残しています。

日本最大級の高層湿原である尾瀬は、西側の尾瀬ヶ原と東側の尾瀬沼地域の2つの盆地を包含しています。尾瀬ヶ原は縦6キロメートル、横2キロメートルにわたる面積を持ち、平均標高は1,400メートルです。標高1,660メートルに位置する尾瀬沼は、周囲が9キロメートルです。尾瀬の台地は、約20,000年前の火山噴火で流れ出た溶岩が独立した窪地を作り出した後に形成されました。この窪地は、現在の色とりどりの多様な野花を含む湿地植物の広大な生育地である泥炭湿原へと徐々に発達しました。

尾瀬ヶ原は2,000メートル級の山々に囲まれています。その中でも最も高いのが2,356メートルの燧ヶ岳です。西側の至仏山以外の全ての山は火山活動を起源としており、深い森に覆われています。至仏山の鉱物の成分は植物の生育にあまり適していないので、この山の森林限界は他の山よりも低い位置にあります。そのため、登山者は至仏山から東側に広がる湿原のパノラマの景色を眺めることができます。

尾瀬国立公園内には道路がありません。公園への入口はいくつかの峠から伸びる林道のみです。登り道は周辺の山々へ、下り道は湿地帯へと続いています。国立公園の群馬県側にある鳩待峠が最もよく使われる入口です。山中の登山道はよく整備され、分かりやすい標識が設置されており、湿地帯には環境保護のための木道が縦横に渡されています。ルートには日帰りで楽しめるコースから、公園内での宿泊が必要なより長いルートまで、いろいろあります。

尾瀬国立公園は5月上旬から10月下旬まで開園しています。標高と天候によって常に環境が変化するため、この比較的短い期間中でさえ、尾瀬はたくさんの異なる表情を見せてく

れます。泥炭湿原を覆う早朝の霧がゆっくりと上がり、周りの山々がそのシルエットを現す様子を見るのは、忘れられない体験です。虹もよく出ます。晴れた空が急に曇ったり、反対に曇りから急に晴れに変わったりします。来訪者には尾瀬の多様な姿を撮影しに訪れる熱心な写真愛好家も多くいます。

冬になると、大量の降雪と気温-10℃にもなる厳しい寒さのため、公園は閉園となります。標高が高いため、夏場でも気温が30℃に届くことはめったになく、夜はかなり冷え込むこともあります。

2つあるビジターセンターがあり、知識豊富なスタッフが国立公園やその自然環境、生物の生態などについて教えてくれます。また、登山道や板道のルート、おすすめの服装と装備についての登山準備に役立つアドバイスも得られます。公園周辺には3つのキャンプサイトと20棟以上の山小屋があり、登山者に宿泊場所や食事、お風呂を提供しています。

長年にわたり、尾瀬は自然保護活動家、山小屋操業者、公園の管理者、そしてもちろんここを訪れる人々による自然保護への取り組みの中心地となってきました。尾瀬国立公園はその自然の美しさを訪問者と共有しつつ、環境を守り続けます。